

平成30年12月6日(木)

老球の細道451号

## 休まず続ける

会津バスケットボール協会 室井 富仁

世界中に「ウサギとカメのお話」があるようだ。日本では元々スピードのあるウサギが怠けたためにのろまのカメに競争で負けてしまう話になっている。教訓はコツコツ努力。

フランスでは、兎は亀を先に走らせておいて、ゴール近くで格好良く追い抜こうと考えていたが、スタートが遅すぎたので兎は亀を追い抜くことができずに敗れた。教訓は、もう少し早くスタートすればよかった。

インドの話は、日本と同じ。兎は昼寝をして亀に敗れる。しかし悪いのは亀ということになっている。「もしもし亀よ」ではなく「もしもし兎さん、目を醒ましたらどうですか」と、なぜ一声かけてやらなかったか?と。教訓は、友情を大切にしなければならない。

カメルーンの亀は親類の亀たちを集めた。走る道筋に一定の間隔で隠れていてくれと頼み、そして出走。兎が途中で確かめるたびに必ず後ろに亀がいたので走りに走る。ついにゴールで倒れて死んでしまい亀の勝ち。教訓は、大切なものは準備・知恵・連帯。

私はやはり日本における話に共感する。だから今までの人生において、何ごとにおいてもなるべく休まないことを是として生きてきた。学校も仕事も、そしてバスケットボールも休まない。休まないでコツコツ努力を続ければ人並み、またはそれ以上になるだろうと。

現在の日本社会は「無理しない」「疲れたら休む」という風潮が主流であるが、時と場合、そして取り組む内容によっては休まずコツコツ続ける努力が大切な場合もある。

会津バスケットボール協会主催の「トップアスリート教室」も8回が終了した。ここに来て休まず参加している子どもと休みの多い子どもがはっきり分かれるようになってきた。特に小学生、中学生においてはミニバスの大会、中学校の大会、アンダーカテゴリーの選抜チームの大会、練習会、そして自チームの練習や練習試合などと色々な行事と重複しながら「トップアスリート教室」が実施されているので皆勤は難しい。

しかし、色々な行事があっても休まないで参加する子どもたちがいる。坂下のM君などは福島駅伝の選手として走り終わった後でも休まずに参加してくれ、デモンストレーションにおいても参加者の見本となるすばらしいスキルを見せてくれる。ちょっとやそっとでは休まない子どもたちが疲れた顔を見せずに頑張っている。そのような健気な姿勢を見せつけられると、私たち指導者もハッスルしなければならない。

私が現役コーチ時代に大成した選手は、例外なく「休まず続ける」選手で、ちょっと何かがあるとすぐに休んでしまう選手は、残念ながら能力を開花せず宝の持ち腐れで終わってしまった場合が多かった。

大器晩成型を目指す子どもたちには、休まないで、心おきなく「トップアスリート」講習会で頭を全開して練習に集中してほしい。そのためには、普段から体調管理を万全にし、他の行事との両立を工夫する。そして事前に学校の課題や勉強を済ませておく。そのような心配りがトップアスリートの矜持である。

「たゆまざる 歩み恐ろし かたつむり」。長崎の平和祈念像を作成した彫刻家北村西望の句である。平和祈念像を制作中のある夜、足下にいたかたつむりが、翌朝には像の上の方にまで達していたことにいたく感動して詠んだという。休まず続ける者が最後に勝つ。